

C—1 日本人学齡期中期の男女児の皮膚の色について

東京家政大 ○木曾山かね
檜垣 晴恵

1. さきに日本人青年女子の皮膚の色や、乳齒期男女児の皮膚の色を測定し、昨年、移行期前後期について測定し、本年は移行期にいたるまえの学齡期中期の8歳より9歳までの男女児について測定して、考察を行なった。本研究は、衣服の色との調和を論ずるための資料をつくることを目的とした基礎実験である。

2. 測定の方法は視感測定で行なった。測定月日は、昭和43年7月初旬、測定時の室温は 20°C 内外、湿度は78%内外のうちに実施し、測定箇所は、額、胸、腕の内外で、皮膚面の照度は、450 Lux 内外であった。被験者の年齢と人員の割合は、8歳、9歳の男女児各135宛計270名を測定した。

3. 学齡期中中期には、マンセル記号 5.0YR6/4 周辺の肌色が、50.5% あり、ついで 7.5YR6/2, 7/2 周辺の小麦色が、30.5% みられた。またほほの赤味が目立ち、2.5YR6/4, 6.5/4 周辺の色が 68.5% みられた。